

八面山活性化基本構想

I. 基本構想の策定にあたって

1. 八面山活性化基本構想策定の背景・目的

八面山は「日本遺産やばけい遊覧」の構成文化財として歴史的魅力を持つだけでなく、豊かな自然、景観観賞（桜・紅葉・夜景）、アクティビティ（初心者からでも楽しめる登山）など、中津市のシンボルとして住民に馴染み深い山である。

しかし、山との関わりの希薄化や地域住民の高齢化等により、八面山の景観や環境の維持、歴史・文化の継承が困難な状況となってきた。

そこで、今後も八面山の自然、景観、歴史、文化等を次世代へとつなぎ、中津市の『シンボルの山』としていつまでも住民の郷土愛を育む山であり続けるためには、中長期的な計画に沿った整備（山づくり・人づくり）を実施することが必要である。

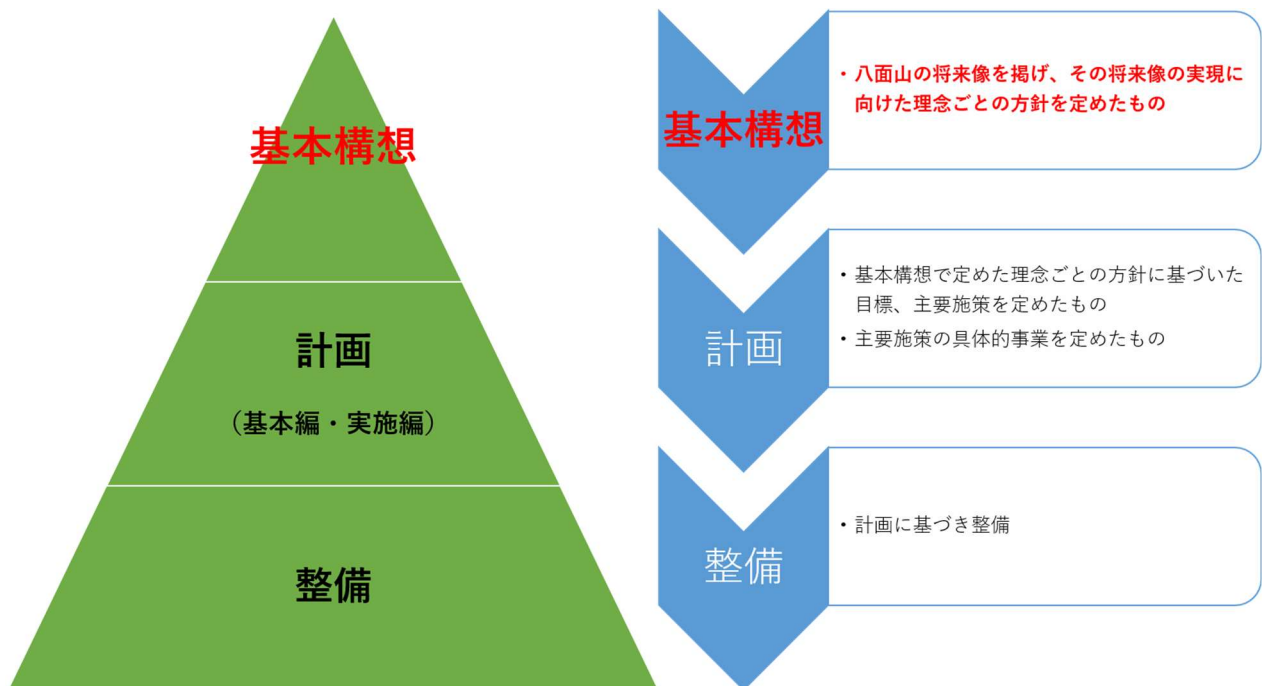
この構想は、50年後、100年後の将来を見据えた八面山のあり方と「持続可能な山づくり・人づくり」を実現するための方向性を示すものであり、また、今後策定する「八面山活性化計画」の礎となるものである。

2. 位置づけ

八面山活性化基本構想では、八面山活性化に向けた「将来像・基本理念・基本方針」を掲げ、この基本構想を柱とした計画（「基本編」・「実施編」）において施策の具体的内容を示していく。

この「基本構想」「計画」「整備」を包括し「八面山活性化プロジェクト」と称する。

■八面山活性化プロジェクト



Ⅱ. 将来像、基本理念、基本方針

1. 将来像

人と地域をつなぎ、未来へとつなぐ八面山

2. 基本理念

(1) 守り、育て、未来へつなぐ

森林資源の適切な保存整備と未来へつなぐ仕組みの構築

(2) 学び、伝え、歴史・文化をつなぐ

古くから伝わる歴史文化資源を次世代へつなぐ

(3) 集い、親しみ、地域と人をつなぐ

価値を高め、資源を活かした野外活動や体験活動など、山に親しむ機会を創出する

私たちは、古来より八面山から多くの恵みを享受し、暮らしを営み、守り育て、伝統や文化を育んできました。

しかしながら、時代の変化とともに、多くの恵みを生み出してきた人と山との関わりも大きく変化し、生業（なりわい）や暮らしの中でのつながりが希薄になってきています。また、エネルギー源としての需要の減少、ライフスタイルの変化などの要因により、山に入ることが少なくなり、景観や環境の維持ができなくなってきました。

このままの状態が続くと、山の荒廃が進み、災害防止機能・木材等生産機能・文化機能・交流機能などの多面的機能も失われ、長きにわたり受け継がれてきた大切な財産である山とその豊かな恵みが失われてしまうかもしれません。

一方、近年は、GX（グリーントランスフォーメーション）など、様々な視点から山の機能や価値が再評価・再認識されています。地球温暖化への危機意識の高まりから、山の二酸化炭素吸収機能が注目され、カーボン・オフセットなどへの活用も始まりました。生物多様性の保全や資源循環などの観点から、山の重要性も再認識されています。

また、健康志向の高まりなどから、ウォーキング、トレッキング、森林セラピーなどの軽運動や癒しの場として活用されているほか、環境教育により自然体験活動を通じて環境保全についての理解と関心が深まりつつあります。

さらに、中津日田道路田口ICの開通により、八面山へのアクセスが飛躍的に上昇し、市内外から今後、多くの方が八面山に訪れることが予見されます。

このような背景を受けて、中津市では3つの基本理念のもと、市民はもちろん、市外の人や将来世代とも共有する「みんなの八面山」として再認識し、八面山を核とした年間を通じた地域振興・観光振興と次なる100年にわたって持続的に山の恵みを生み続けられるような姿を構築することを目指します。

3. 基本方針

基本理念の実現に向けて、基本方針を以下のとおり設定します。

理念(1)「守り、育て、未来へつなぐ」

森林資源の適切な保存整備と未来へつなぐ仕組みの構築

①伐採・再造林

戦後の高度成長期に造林した針葉樹（スギ・ヒノキ）は、現在伐採の時期を迎えています。主伐期を迎えた森林資源の活用と、伐採後の針広混交林への転換を図ることで、下記（ア）～（ウ）の実現を目指します。

（ア）生物多様性の保全

生き物がたくさん住める環境を目指した、生物多様性の山であり続けるようにします。

（イ）防災・減災

山や地域住民の生活を守るため、水源かん養及び土壌流出防止機能、災害緩衝機能の高い森林を目指します。

（ウ）GX（グリーントランスフォーメーション）

持続可能な木材利用と循環資源である森林の再造林整備を図ることで、カーボンニュートラル実現に貢献する山となるようにします。

②環境整備

美しい景観を保ち八面山への来訪者に安全で快適な環境を提供します。

③八面山を未来につなげる人財（担い手）をつくる

八面山の活用と保全に対する市民や地域、企業などの理解を深め、協働による山づくり・保全・活用を推進します。

理念(2)「学び、伝え、歴史・文化をつなぐ」

古くから伝わる歴史・文化資源を次世代へつなぐ

①歴史・文化の継承

貴重な文化財・史跡の保護・保全に努め、古くから八面山に伝わってきた様々な歴史や文化を継承していきます。

②歴史・文化の掘り起こし

八面山には、森や巨石、樹木等を神々とする自然崇拜の信仰、山岳修行の場（修験）など、身近な生活の中で保存されてきた歴史文化遺産が数多く継承されています。歴史文化遺産として認められている意義や価値について理解を広めるとともに、掘り起こしに向けた取組を推進します。

③情報発信と価値の共有

身近にある貴重な文化財を感じることができるよう、多様で豊かな歴史文化を広く情報発信するとともに市民の郷土愛の高揚を図ります。

理念(3)「集い、親しみ、地域と人をつなぐ」

価値を高め、資源を活かした野外活動や体験活動など、山に親しむ機会を創出する

①山全体のブランディング

歴史・文化・風土に即した統一感をもったブランディングを行い、ブランディングに沿った整備を推進します。

②ゾーニングの設定

八面山をゾーンごとに類型区分し、眺望に配慮した自然環境や景観の再生・保全、地域資源を活かした独自の体験価値の創造を推進します。

③施設の整備と活用

施設の整備・活用方針を定め、地域住民や来訪者の交流の場・拠点づくりの場となるようにします。

④環境教育

長期的に持続可能な山づくりを推進するため、学校教育と連携を取りながら、子供たちが山に親しむ体験・林業作業を体験する機会を増やす環境教育を推進します。これにより、感性豊かな心の発達とふるさとへの誇りと愛着の持つことの実現を目指します。

⑤アクティビティ

様々な体験活動、レクリエーション、イベント等を通じて、山に親しむ機会の場を創出します。

⑥八面山の魅力発信

八面山の魅力を市内外に発信して、観光誘客に繋がるように推進していきます。

【 将 来 像 】

人と地域をつなぎ、未来へとつなぐ八面山

【 基本理念 】

(1) 守り、育て、未来へつなぐ

森林資源の適切な保存整備と未来へつなぐ仕組みの構築

(2) 学び、伝え、歴史・文化をつなぐ

古くから伝わる歴史・文化資源を次世代へつなぐ

(3) 集い、親しみ、地域と人をつなぐ

価値を高め、資源を活かした野外活動や体験活動など、山に親しむ機会を創出する

